

か し 行 遠 を は 人
ら 急 く き 負 重 の
ず ぐ が 龍 ふ き 一
可 如 を て 有 生

「それば、此の様子、左側と離れるは口惜うござります。」

「うなた主の胸を背くや否の。」

「とはござりませぬも」と左様は、低し

つる。只御知しござりませ、此後ま

す。我儘は申しませぬ。

「それなら早う行きやらぬか、そなたなど」

で無うては留はぬ用、婦人での締むわづらひ

ことを、そなたに付ひ寄は無い」とぞね

遣は渡を、ある、左様の真心無々とな

に迫りて、針の如くに骨を刺す、今般に

辭さふ要も無し、左様は覺悟を極めな

から

「れ同て生じまする、一走りに行つて

象四邊に滿つ閣下に與ふる所の緒十回を重ねざるに早くも季は變轉

●「圓下化」は形而下の問題に非ず形而上の問題なり。形而下は「形而上」に非ず精神上自然の健進を俟たざるを得じ。されば他と圓下化せんとするものにあつては幾分圓下化せる凡ての欲望を圓化者其の者の欲に得たる欲留と同一程度又は少なくも失れに近き程度に達せしむるべし。然らざれば被圓化者其の者の義務履行の範圍に於て恩を施し難を厚くせざる可らず斯くして始めて眞の圓化は行はれんもの然るに此の理に則らずしては圓同化を口にす之れ恰も百年黃河のくは一片の砂を望め給はんことを（二）

れや故の確據や一片同情の涙なるべからず。今晩はひとつ忠實なる胃袋の爲に愛はて主客の巴里漫遊を了へた歸朝祝に牌を呼んで牛肉と鶏卵とを命じて又クヌーキーの杯と舉げた。總角が洋

今宵園有 限 仁 北 嶋 謹 啓
無料調劑 元 北 嶋 謹 啓

燈と持つて來たので火を貼ける、大阪毎日を呑み乍ら讀むと四川省の星圖が大分ものになりそうだ、先年某所で達

我輩を事として居るたろやと思
圖を展へて其折の話などを考へ

る國より育ふと稱せず政治上して凡ての點に於ける國化否も重に考慮せられ及び社會上に於ける國化の方法は多岐あるに先づ社會上に於けるは憲法維持問題の如きは其例であるものなりんや尤も國際聯盟は母國の學者間に於ける重大問題に屬し從つて愛に輕々しく可否の論を試むる能はずと雖も更に他の政治上及社會上の方面よりして國化を促すの方法亦決して之れなきに非ず尤も國化の方法に就ては當局にあつても大に苦心しむるの所故に暫くしてと見ての頃には長

腐つた魚と胡瓜醬とで我輩の借上なる胃袋は到底満足せぬのである、我輩は由來此種慢にして不遜なる胃袋と稱爲するに餘も多年苦心心懷して謀を遺すのだが竟に未だ退治策と發現し得ない、或時は積極的に燒燬し爲に以て食ひ、或時は積極的に燒燬し爲に以て食ひ、反抗と買ひ再び此策を執らうとした時は大に胸をムカつかされて斷念をさざるを得なかつた、或時は消極的に一物を胃の隅に送らぬ事にしたが此際には流石の頭故に暫くしてと見ての頃には長

七草のはなとなりながられち栗も

野秋興

そのつゆとに月ぞやとれる

月前草花

八千くさのうの花こに露なきて

●其の日

杉の会主人

文苑

と見るに腹内の消息も樹せられるれども今暫く閑居のあゝも待たなければならぬ。蟹もや縦横謀不就、杖策踰天子と高唱する。

第百五十回

人にて其のせしむるものなりす却つて
水灌に歸せしむるのみならず却つて
最結果を亦たすなりやを保すべからず之
れ當局の豫め警して且つ戒めざるべから
ざるものなりされど同化は實に當局の
責にのみ負はしむべからず母國移住民
にあつても大に之れが實行に努めざる
べからず之れ要するに群人啓蒙の根本
意識に上りて母國國民當然の天職なり
也團内寺内總督等々帝都の在り諸般
の用件略ぼ終了を告げたるを以て期月
ならずして罷任の途に就かるべしと傳
へらるる歸任の日朝辭の施設に就て更に
命じて以て從はずんば之を罰し之を刑
し須く差願命維從はしむべし、而かも
黨を組み投と集めり竹槍蓑履皮骨骨相
繋するに至るを肯んせんは仕方がない
に相食とるを肯んせんは仕方がない
から代るにソバのかけ一杯と以てし
て之を胡魔かきのみ、然し思ふに之
身内に在つて主將の命をさかすんば、體
に如解して村上義光の如く胃の強を體
外に振棄するの快なるに如かんやだが
考へて見れば又憫な所もある、彼や貧
乏の如き仕へて昔は左方ちやん
かひ強や大變。する這入口

●秋季雜吟 多田千春
初冬の風いて去りけり破窓空
古ての掛た寒山子や雪の烟
秋の忍涙し木々の一つ 柿
秋の蚊の喰ひ付かねた毛毳成
思ふかと語る様なり 稻香
心かと語る様なり 鹿の聲
門先は國界なり鹿の聲
一葉散る朝や箒の持ちこ
名月や惜まらず雪はける心
露の玉一つも斑のなかりけり
かけ紙や大變。する這入口

の經營
の「聯合」
が、句好いでござります、わ

参るより、仲間衆の早い流れ頼み申が納句好いでござります、お待ち遊

[illegible]

召使れ初
第五百十回
黒法師

「旦那様々々」とそれ察は再び呼びかけて、「どう遊ばしたのでござります、此の御様子は何事でござります」

「うなまたまだ行かぬか」とこれ道に顔を背けたると、「何として居やる方のいせね」と旦那様御様子に後に見ては行かれしと、「それには心配の眉を蹙めて」「何ぞ遊ばしたのでござります、運を仰せござりませ」

「運としては無い、又脚が悶ゆるわ喘」と血を絞る聲なり、「私の事に管ひはないで、うな早う行つたものれ」

「旦那様御病氣見捨ててもはなりません、弊老屋への御消息、仲間衆を頼み私は御介抱、女の歩に、おぼろけさふより、仲間衆の早い歩を頼み申す、お給句好いでござります、お待ち遊ばす只今の如に申し上げたを後悔して居るにぞ恐れなき心は、涙みたる目の中に溢れたり、数ならぬ身を主と思へばこそ、斯は是まで云ひ呉れる志を無にするは身を切るより辛けれど、生に道なき運命の果敢なきは、心に先ん、此の情をも先に報ひでは論はじきませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ」

「これは必云へをとなれたまひながら、さては女の主と侮り、氣随氣儘云やちやの」

「勿体ない、左様ではござりませぬ、大切御用と存じながら、れ胸の悶えてござりますを、後に見えるが情無くござります、今更に見えぬ情無し、只今の如に申し上げたを後悔して居るにぞ恐れなき心は、涙みたる目の中に溢れたり、数ならぬ身を主と思へばこそ、斯は是まで云ひ呉れる志を無にするは身を切るより辛けれど、生に道なき運命の果敢なきは、心に先ん、此の情をも先に報ひでは論はじきませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ」

「うその心を杖と頼んで、うなた歸らんと待ちてあるわのて、れ道はほつと」

「召使とは思はぬ、肉身の姉とて身は姉と力に思ふで、前途に怪我のいやう、私も新る、そなた氣を付けたまふちやの」

「それとこれ道は我知らず憂かけ、」

「旦那様の心に恨みは私の恨み、旦那様の御耻辱は私の耻辱、ござりますで、私一命のある限り、敵を報たすには置きませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ、れ恨みを散らすには置きませぬ」



しませ、只今れ摩り申します」と云ひ
掛け起たんとす
「な祭」これになく聲を鋭く「仲間衆
で終ひことなりやわさうなたを頼
みさせぬ」と
「さればとて、此の様子、左側と離れ
るは口惜うござります」
「うなた主の詞を背くやの」
「とはござりませぬもれは祭は低し
胸を撞で、胸臍を致します、後髪
も引かれます、左側に仕申して後
斯は世の御無理をこれに申したことで
ござりませぬ、一生一度の左願ひ、左育
き届け下さりませ、今日ばかりは左側
にありたうござります」
つと我儘は申しませぬ
「それなら早う行きやらぬか、そなたが
で無うては留はぬ用、餘人で事の終わ
りごとと、そなたに恃ひ留は無い」とわ
遣は涙を、切る、左祭の真心無々と胸
に迫りて、針の如く左育を刺す、今片
辭まん要も無し、左祭は覺悟を極めな
がら
「左側に使ひます、一走りに行つて
参ります、私の歸るまで、悉くござ
りませ、假へ誰か参らうとも、如何な
る運命とござりませうとも、じつと左
に遊ばすのでござります、女ながら遊
びが引く受け、旦那様は恨み晴らすに

最新歐米流行珍柄洋服地
御婦人用コートの地
朝鮮周衣地各種
總督府文官制服地
洋服附屬品各種
帽子附屬品各種

羅紗大放賣
洋服調進
諸官衙御用達

京城長谷川町二丁目第一番戸
富田屋商店
電話七二二番
振替口座東京九〇番

同業者に限り冬物見本御用の諸彦には御通
知次第即時送呈可仕候

大阪株式取引所仲買人

長き経験と熟練とを以て常に顧客の御便宜と計りつゝ、わが弊店は特に京福方面に福澤商店を取次とし、毎日市場成行截止後止を打電して遺憾なく御報致し居候。

相模道の蘆針、駿北治通報を發行し、併せて相模上の意見仰下開次第調査回寄仕候。

弊店は秘密機械教授の三大素を確守仕候。

北治株式商店

京福城府龍山榮町
福澤商店
現物部

創業明治十四年六月

緊急廣告

電氣應用廣告開始仕候間御希望の方は當
課へ御申込被下度候
尙電柱廣告の儀は此際割安を以て御用に應
じ候間至急御申込願上候

日韓瓦斯電氣株式會社

營業課

廣 告
 順弟子堂入用(但し年齢
 京城曙町六四(電話九九一五番)

ね察は座敷の外に泣き伏して、雙に
 上着藍の風をよよくと涙しかもる

生徒募集
 に教學國語專門の兩教師を附し英德
 國語作文修身各學級の生徒に英德
巡查志望の者の爲め特に置く
 旭町一丁目 **京城學舎**
 ▼懇切丁寧●眺望佳絕▼
 京城旭町二丁目

▲室内高潔◎料理新鮮▼
 電話八二八番

不二屋



多セキ
 の改良劑
呼吸器散
 價 三十五錢
 本館發行

世界一の

信アネリン錠

わが病藥

價 五十錢
貴州會芳店

呼吸器丸
 價 三十五錢
 本館發行

東京

大阪

京都

本館

...

死生を成敗せしむる外に、己の道を尊ぶる意氣を有するが、又足下は黄金と利害の前には何物とも犠牲にして顧みざるヨボ化せる様多化せる此民間の爲めに片思ひの情死をする程の正直のものにあらずば、

○朝鮮の邦字新聞にして現存するもの多數十餘、何れも時代と官制とに屈伏重して勇健奮闘に可なり、幸に益々日

二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

五) 二十
十二日開
十二日開
二十二
水原行
八八四
圖四二
三〇
九八〇

校
二
一

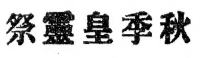
行と鑄造
引揚げた
つた▲商
の人心と
分はオロ
りや我々
金問題で
ありと云
民國債百
たのは大

-256-

死は一人の願
てんばな
リピンは
どこで
提問され
る。求め
たなる人
を、
其の心
の中へ

北
とカグ
り候へ、病

鉛木は愛
度の熱天晴
と蓋かした
鉛木此頃の
レにも増し
及びドイツ
能劣比較論



既了する
 底、又は民
 ある者に
 ふ
 如く漢城
 解式を
 功勞者に
 の起るる新義有て然し其の
 みてるソク大聞く度支部の給水は竟
 馬樂馬家中の大彼れ日八度の熱天晴
 して總督に到り、主人伯と驚のした
 こがある▲教上に上げる鈴木此處の
 安勢は立派なるもの、併しソレにも増し
 て立派なるは彼れの各式機及びパイプ
 イダリス、フランス式機の優劣比較論

方です」と云つて小さい溜息を吐
詰が理に落ちて來た「時に私の妹達の
方だが田舎に遠ざかして其の方の景
は如何ですか」と訊くとフツと氣を

妻なるが小栗は從來高利貸及
び質屋を業とし附近の者の憎
れものなりしが近頃詐偽横領

一行は銅殿分署に到り目下入監中なる小栗榮吉を呼出し種々の關係事項を尋問し二十三日午前十一時榮吉の訊問を拘引中の嫌疑者二名の訊問に移す

正に殺害せんとせしに金浦警署より保官及今村賢士出張偵察の被害者加害者共京城地方裁判所仁川地方裁判所に付せられ居たり

、白鳥劍製一羽 電民團立日出尊常高
八大和町二丁目四十三號官舎隣屋
邸殿ヨリ客附相成候條此段公告ス
明治四十四年九月廿二日
古成宮堂

來南大門驛前にて營業罷在段
移轉一層懇篤を主とし諸君の
御引立を乞

候所今回業務擴張の爲左記御便宜御計可申候何卒倍舊

山 興樂商會支店

其
下度候
電話一四五、振替登一五

獨立は

山牧場

の節は多大の御引立を
の然らしむる所と深く
木各産地よりの**特約**

二に依り空前絶後の**破**期間中は現品に賣價を度奉(頭上)候

日ヨリ
デ

着分
五圓
九圓
均

着分
七圓
十二圓
均

着分
四圓
七圓
十二圓
均

着分	十五圓十八圓	均
枚分	廿二圓廿八圓	均
枚分	三圓半銀五圓七	均
枚分	四圓九圓十二圓	均
枚分	五圓六圓七圓	均

一枚分四圓六力均五圓七圓以て差上可申候

電話 六九二〇三番

電話 二二〇番

10

讀書の好時其
御散步旁御立者陳列場御縱覽發下度候
電贈一四五、振替登五
目韓書房

陸勝奉賀忽而當春夏物賣出しの節は多大の御引立を
 爲め候事全く御得意諸彦御愛顧の然らしむる所ぞ深く
 物御入用の期節に向ひ折柄**歐米**各產地よりの**特約**
 欄に相成殊に當年**歐米**粹中の粹を抜たるものに御座
 り**二千着分**に限り左記方法に依り空前絶後の**破**
 八賣出しに執行可仕候賣出し期間中は現品に賣價を
 限開賣盡さくる内に御買求被下度奉願上候

期間 九月二十五日ヨリ
 十月五日マデ

外套地等

フシヤ 上スチン ズキ黒ラ ボロン 縞コイル 各一着分 廿五圓十八圓均	縞セル 縞セル 縞セル 縞セル 各一枚分 廿四圓十七圓均	薄ラシヤ 各一枚分 十四圓九圓均	縞セル 各一枚分 十四圓七圓均
---	---	------------------------	-----------------------

非常廉價と以て差上可申候

丁子屋支店

電話 六九〇三番

▲耐久無比實用向タイヤ
英國製アイロンタイヤ
京本町二丁目
自轉車織居商店
電話四八〇番
電話(一八〇番)



▲西陣御召類
▲西陣織帶地類
▲西陣織物色々
長
西陣織物店
京本町二丁目
電話二九二番



冬物荷揃
京城南大門通三丁目
泉屋 甲田種次郎商店
電話七一二番

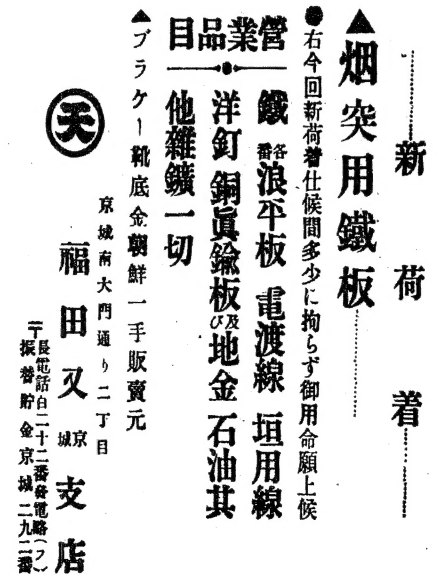
目品業營
流行帽子類 旅行用化粧箱及
マントス類 靴トランク類
毛布類 化粧品各種
洋服付用品 其他文房具
袋物類 學校用品一切



魔法瓶
伯林イッラ社製
寒中温かいものを入れて置けば
廿四時間入れたと
同し温かいですから夜中
子供の哺乳用として勝又遊
山遊獵の節欠く可らざる逸品
定 價 大 三 圓
中 二 圓
小 一 圓
朝鮮一手販賣 熊平商店
京本町二丁目 京本町一丁目
電話六二四番



新 荷 着
▲烟突用鐵板
●右今回新荷着仕候間多少に拘らず御用命願上候
●鐵 各浪平板 電渡線 垣用線
●洋釘銅真鍮板の地金石油其
●他雜鐵一切
▲ブラケー靴底金朝鮮一手販賣元
京城南大門通り二丁目
福田又支店
電話二二二番
電話(二二二番)
電話(二二二番)



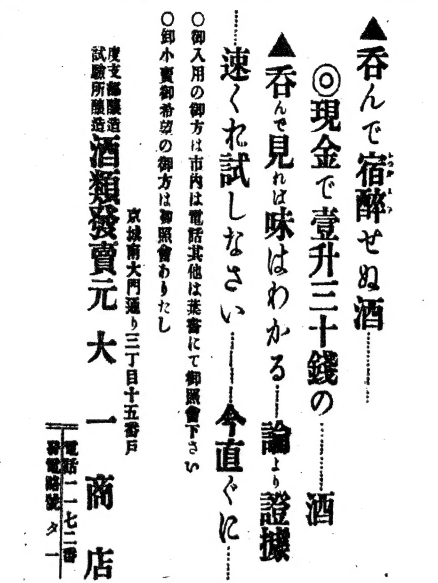
農具ト蠶具
京本三輪商店
戸田春藏
電話三八六番
電話三七五番



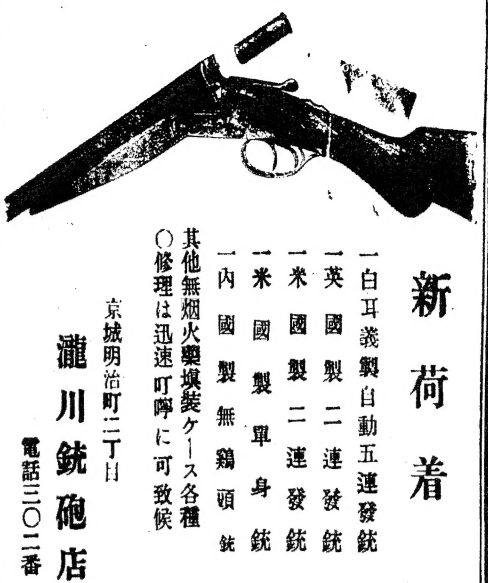
冬物荷揃
實 確
札 正
目丁三町本城京
店服吳一丸
(番五三六路電)



▲呑んで宿醉せぬ酒
◎現金で壹升三十銭の酒
▲呑んで見れば味はわかる一論一證據
速くお試しなさい 今直ぐに
○御入用の御方は市内は電話其他は美書にて御照會下さい
○御小賣御希望の御方は御照會下さい
京城南大門通り三丁目十五番
度支所隣酒類發賣元 大一商店
電話二二二番
電話(二二二番)



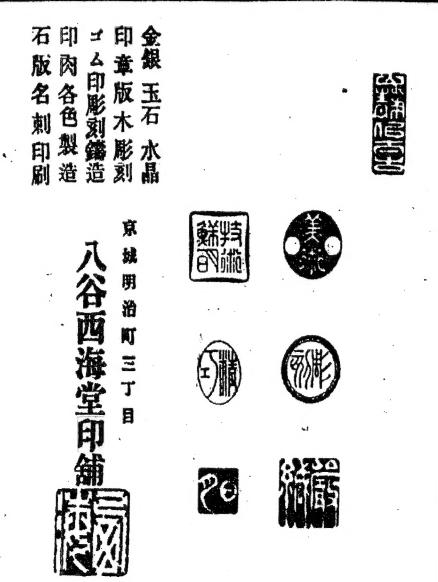
新 荷 着
一白耳義製自動五連發銃
一英國製二連發銃
一米國製二連發銃
一米國製單身銃
一內國製無雞頭銃
其他無烟火藥填裝ケース各種
○修理は迅速丁寧に可致候
京本明治町二丁目
瀧川銃砲店
電話二〇二番



活版印刷
▲迅速丁寧
▲價格低廉
鮮 明 社
電話千五百四十四番
京本太平町三丁目



金銀玉石水晶
印章版木彫刻
ゴム印彫刻鑄造
印肉各色製造
石版名刺印刷
京本明治町三丁目
八谷西海堂印鋪
電話二二二番



冬帽子
所捌賣帽制定
着 荷 新
京本町二丁目
ミナト帽子店
▲地方より御注文は御一報次第
迅速御發附可申候

